

学 位 論 文 要 旨

氏 名 野口 太輔

題 目 小学校低学年児童を対象にした自律的自尊感情を育成する教育プログラムの
開発と効果評価

本研究は、小学校低学年児童を対象として、自尊感情の適応的側面である自律的自尊感情に着目し、その測定法および育成について検討することを目的とした。自律的自尊感情は、乳児期から基盤が形成されると考えられており、早期からの支援が重要である。しかし、これまでの自律的自尊感情に関する研究や教育実践は主に中・高学年児童を対象として行われてきたため、低学年児童の発達的特徴に即した評価法や教育プログラムは十分に整備されていない。そこで本研究では、低学年児童にも適用可能な自律的自尊感情の測定法を開発し、その信頼性・妥当性を検証するとともに、自律的自尊感情の育成プログラムを開発し、その教育効果を明らかにすることを目指した。

第1章では、自尊感情に関する心理教育および研究動向を整理した。自尊感情は健康や適応に関わる重要な心的特性であり、近年では社会情動的スキルの中核的要素として国際的にも位置づけられている（OECD, 2018）。こうした動向を背景に、日本の学校教育においても自己肯定感の育成が重視されている（文部科学省, 2022）。一方で、自尊感情には適応的側面と不適応的側面が存在することが指摘されている（Deci & Ryan, 1995 ; Kernis, 2003）。

第2章では、自尊感情の理論的枠組みとして自律的自尊感情に着目した。山崎他（2017）は、自尊感情を適応的側面と不適応的側面に区別し、非意識レベルでの測定の必要性を指摘している。これを受け、潜在連合テスト（IAT）を用いた測定法が開発され（横嶋他, 2017）、TOP SELFに基づく育成プログラムが中学年以上の児童を対象に実践されてきた（横嶋他, 2018 ; 賀屋他, 2020）。しかし、低学年児童を対象とした測定法や教育プログラムは未整備であり、本研究の課題とされた。

第3章では、以上の課題を踏まえ、本研究の目的と意義を示した。小学校低学年児童を対象に、自律的自尊感情の測定法および育成プログラムを開発し、その有効性を検証することを目的として示した。

第4章では、低学年児童を対象としたIATの構想を行い、他者評定法の課題や先行研究におけるIATの開発経緯を整理した。

第5章では、顔文字刺激を用いた低学年児童用自律的自尊感情簡易版潜在連合テスト（IAT-ASE-LGC）を開発し、小学校2年生を対象に信頼性・妥当性の検討を行った。その結果、再検査信頼性は $r = .68$ と中程度から高い水準であり、行動評定との関連から妥当性が支持された。

第6章では、小学校1年生を対象としてIAT-ASE-LGCの適用可能性を検討した。再検査信頼性は、 $r=.70$ と良好であり、行動評定との関連から妥当性も支持された。

第7章では、低学年児童の発達的特徴を踏まえ、自律的自尊感情の育成を目的とした教育プログラムを開発した。先行研究（賀屋他，2020）を基盤とし、アニメ主導型の教育プログラムの構想を論じた。

第8章では、開発した自律的自尊感情育成プログラムを小学校2年生を対象に実施し、教育効果の検証を行った。介入前後にIAT-ASE-LGCを実施した結果、教育群において自律的自尊感情を示す潜在指標が向上し、待機群では同様の変化は認められなかった。これにより、本プログラムが小学校低学年児童においても、自律的自尊感情に働きかける教育的効果を有する可能性が示された。

第9章では、さらに低年齢である小学校1年生を対象として同様のプログラムを実施し、実施可能性と教育効果の検証を行った。その際、IAT-ASE-LGCだけでなく、Q-U（河村，2005）を用いて教育の波及効果の検証も行った。その結果、1年生においてもプログラムは実施可能であり、IAT-ASE-LGCの結果から、教育効果が確認された。波及効果については、被侵害得点に関して教育効果が示された。

第10章では、第8章で検討できなかった教育の波及効果を小学校2年生を対象に検証した。その結果、教育群において、Q-Uにおける被侵害感に関する指標が低下し、学級内での人間関係の安定が高まる傾向が確認された。加えて、担任及び授業実施教員へのインタビューからも、学級の落ち着きに関する肯定的な変化が語られた。

第11章では、本研究で得られた知見を統合し、低学年児童用のIAT-ASE-LGCの開発と、低学年児童用の自律的自尊感情育成プログラムの有効性を検証したことをまとめた。

第12章では、本研究の成果を学校教育へ活用する可能性を論じ、PBISを基盤とした包括的支援システムへの統合の有効性を示すとともに、教師研修体制や多面的評価体制の整備といった今後の課題と展望を示した。

本研究での測定法の開発および自律的自尊感情の育成教育プログラムの作成によって、従来の研究では十分に検討が進んでこなかった小学校低学年児童の自律的自尊感情研究の基盤構築に向けた重要な一歩となった。今後、本研究の成果を発展させることで、発達段階に応じた一貫した自律的自尊感情の育成が可能となり、本研究の教育プログラムが実証に基づいた教育として学校現場に広く普及し、子どもたちの健康で適応的な発達に寄与することが期待される。